

学校だより

さくら



教育目標 やさしさ つよさ
たくましさのある さくら小の子

令和5年

1月号その1

1月10日発行

大島町立さくら小学校

〒100-0102 大島町岡田字長坂 113

電話 04992-2-8021 ファクシミリ 04992-2-8853

E-mail 02T000@izu-oshima.ed.jp

ホームページ

あけましておめでとうございます 校長 石原 一彦

穏やかな天候に恵まれ、令和5年(2023年)がスタートしました。

昨年は、さくら小学校の教育活動にご理解ご協力をいただきありがとうございました。新しい年を迎え、子供たちが『夢』をもち、未来に向かって挑戦していくことを願い、大いに期待をもって臨みたいと思います。

3学期は、1年間のまとめの学期です。6年生にとっては小学校6年間最後の学期となります。1日1日を大切に、さくら小学校のリーダーとしてがんばってほしいと思います。さくら小の一人一人の子供たちがそれぞれ次の学年への進級、進学に向けてしっかりと学び、力を蓄えることができるよう、職員一同、力を合わせて取り組んで参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

元気いっぱいに行った さくらマラソン

マラソン担当 鈴木 正利

11月11日(金)に大島一周マラソンカードが配られ「さくらマラソン」に向けた練習がスタートしました。朝学習の短い時間ですが、今年も全校児童でグラウンドを走りました。寒い日も風の強い日も、一生懸命練習に取り組む姿は本当に素晴らしかったです。朝だけでなく、休み時間や休日にも自主練習する児童もいました。大島一周カードをクリアすると、43キロ走ったことになるのですが、今年度は18名もの児童が達成。大きな自信につながったことでしょう。

12月17日(土)には、昨年度同様サンセットパームラインを使用して、「さくらマラソン」が行われました。当日は天気に恵まれ、最高のコンディションの中、走り抜くことができました。練習の成果を発揮し上位の成績を収めてガッツポーズをしている姿もあれば、自己ベストを更新したことに達成感を味わい、晴れ晴れとした表情をしている姿も見られました。それぞれが自分のマラソンを楽しむことができた1日になったようです。マラソンは、人と競うというよりも、自分との戦いが大部分を占めるスポーツです。苦しくても頑張って走った自分、努力を続けて記録を更新した自分に、誇りをもってほしいです。今回のマラソンを通して、心も体も一回り大きく成長した子供たちに大きな拍手を送りたいと思います。

子供たちのために安全管理をしてくださった保護者ボランティアの方々、たくさんの声援を送ってくださった保護者の方々に感謝申し上げます。



連合音楽会 3年ぶりの会場開催

連合音楽会担当 木村 久美子

コロナ禍のため、一昨年度は中止、昨年度はオンライン開催となった大島町連合音楽会が、今年度は3年ぶりに開発総合センター大ホールで開催されました。

大きな舞台での音楽発表は、5年生にとっては小学校生活で初めて、6年生にとっても2年生のときの学習発表会以来となりました。慣れない経験だけに、練習を始めた頃には「緊張する」「録画のほうがいい」といった声もありましたが、本番の発表を終えた子供たちの顔は達成感に満ちていました。緊張感をもちながらライトを浴びて演奏すること、そして目の前にいるお客さんからの温かい拍手をもらうこと…… 3年前までは当たり前だったことですが、今年度の子供たちには格別に、大きく貴重な経験だったことと思います。



心から「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるようになろう

1月 生活目標担当 中山 開

「ありがとう」の感謝の気持ちは伝えたほうがよいことは分かっているけれど、友達や家族に対してなかなか照れくさくて言えない。やってもらうことが当たり前になってしまい、言いそびれてしまっている。ということが子供でも大人でも時々あるのではないかと思います。

では、そもそも「ありがとう」とは、どのような言葉なのでしょう。「ありがとう」の語源は、仏教のたとえ話がもとになっていると言われています。漢字で表すと「有難う」・・・「有る」ことが「難しい」と書きます。「他人から何かしてもらうことは、めったにないこと」=有り難いこと。その言葉が崩れて「ありがとう」になったというのが語源のようです。

私は子供のころに、兄とともにサッカーを習っていました。送迎をしてくれる親から言われた言葉を今でも鮮明に覚えています。「お兄ちゃんは降りるときに『ありがとう』と言うのに、あなたは言わないのね。」その時は、兄と比べられたことも悔しく、ふてくされていましたが、時間が経つにつれて自分が間違っていたと改心することができました。その出来事がきっかけで「ありがとう」の言葉を意識して伝えられるようになったと思っています。兄弟で比べることはよくない・・・という考え方もあるかと思いますが、プラスに働くこともあるようです。今でも、祖父の介護で頑張ってくれている兄に対して感謝の気持ちを伝え、実家で食事を用意してもらった時には「ありがとうございます!うまい!」の言葉と皿洗いで感謝の気持ちを伝えています。学校でも、多くの場面で学校のため、学級のために動いてくれている子供たちがたくさんいます。その子供たちが行ってくれていることが、当たり前にならないように。また、その行動や思いやりに気づき、感謝を伝えられる子供たちを育むことができるように言葉掛けをしたいと思います。

<生活目標> 心から「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるようになろう

<保健目標> 寒さに負けない体をつくろう

<給食目標> うがい、手洗いをしっかりしよう